

事業シート（概要説明書）

予算事業名	公共交通活性化総合対策事業	事業開始年度	2000年度
上位施策事業名	地域公共交通の維持活性化と新たな展開	担当局・部名	交通政策局
根拠法令等		担当課・係名	交通戦略企画課
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	作成責任者	有田

実施の背景

○「富山県地域交通ビジョン」(H28.3)、「元気とやま創造計画」(H30.3)に基づく将来にわたって持続可能な公共交通の実現を目指し、本事業では、利便性の向上等を図ることで、利用者増に結びつけるため、利便性向上等に向けた市町村や交通事業者等による主体的な取組みを推進。

○こうした中、県民一人当たりの公共交通の利用回数はこれまで増加（～H30年度）。しかしながら、R元年度末以降は、新型コロナの影響により、公共交通の利用が大幅に減少。現在もコロナ禍前の利用水準には依然として回復していない状況が続いている。

○さらに、人口減少・少子高齢化の本格化、働き方の変化等も進展しており、公共交通を取り巻く状況は近年一層厳しさを増している状況。

○県では「地域交通戦略会議」を昨年立上げ。利用者代表、市町村、交通事業者、県内外の有識者等が参画し、新たな地域公共交通計画の策定に向けて検討中。

目的
(何のために)

生活圏の身近な公共交通サービスの利便性向上等と利用者増の好循環を実現

対象 (誰・何を対象に)	市町村、交通事業者等	対象者数（全住民に対する割合）			
		-	人	(- %)

実施方法

直接実施（直営）

業務委託 又は 指定管理（委託先又は指定管理者：）

補助金 直接・間接（補助先：市町村、交通事業者等 実施主体：）

貸付（貸付先：） その他（）

事業概要	事業内容 (手段、手法など)	事業内容（箇条書き）	事業費	活動指標
		①活性化総合対策事業 (公共交通の活性化計画の策定に必要な調査、コミュニティバス等の実施に必要な計画策定・実証運行、バス停の整備等に要した経費の一部を支援) ・補助率：市町村の場合 1/3以内 交通事業者の場合 1/4以内 ・支援上限：市町村の場合 5,000千円 交通事業者の場合 2,500千円	13,367 千円	計画策定等の取組件数
		②パークアンドライド推進事業 (P&R駐車場・駐輪場の整備、看板の作成等の普及啓発に要した経費の一部を支援) ・補助率：市町村の場合 1/3以内 交通事業者の場合 1/4以内 (普及啓発費は1/2以内) ・支援上限：2,000千円 (普及啓発費は500千円)		P&R駐車場・駐輪場整備の取組件数
		③乗りたくなる公共交通推進事業 (バスや路面電車の車両のラッピング、内装の改装、車内放送の更新、公共交通の利用促進事業等に要した経費の一部を支援) ・補助率：1/3以内 (利用促進事業は1/2以内) ・支援上限：5,000千円		車両のラッピング・車内放送等の取組件数

関連事業
(同一目的事業等)

・新モビリティサービス等推進事業
AI・ICT等を活用した新たな移動サービスの創出に向けた地域の取組みを支援

事業シート（概要説明書）

予算事業名		公共交通活性化総合対策事業								事業開始年度		2000年度	
コスト		2023 年度（予算）		2022 年度（決算見込）		2021 年度（決算）		2020 年度（決算）					
	事業費合計	13,367千円		12,448千円		8,089千円		5,569千円					
	事業費内訳 (2022年度分)	①活性化総合対策事業 11,214千円（計11件） （各市町村による計画の策定に向けた調査、魚津市の市民バス再編に伴う課題調査・分析等） ②パークアンドライド推進事業 906千円（計2件） （立山町による下段駅付近の駐輪場整備、高岡市による看板設置） ③乗りたくなる公共交通推進事業 328千円（計3件） （魚津市によるバス車両のラッピング、富山地鉄による路面電車のラッピング等）											
	人件費	担当正職員	0.2人	1,415千円	0.2人	1,476千円	0.2人	1,460千円	0.2人	1,455千円			
	臨時職員等		人	0千円	人	0千円	人	0千円	人	0千円			
	人件費合計	0.2人	1,415千円	0.2人	1,476千円	0.2人	1,460千円	0.2人	1,455千円				
	総事業費	14,782千円		13,924千円		9,549千円		7,024千円					
財源内訳	国補助金												
		国補助金の内容											
	地方債												
	その他の財源 (使用料、手数料など)												
		その他の財源の内容											
	一般財源	14,782千円		13,924千円		9,549千円		7,024千円					
	財源合計	14,782千円		13,924千円		9,549千円		7,024千円					
事業実績	活動実績	【活動指標名】（実績値/目標値）			単位	2022 年度	2021 年度	2020 年度					
		利便性の向上等と利用者増の好循環に向けた取組件数（累計）			件	283/	267/	251/					
		計画策定等の取組件数（累計）			件	97/	86/	78/					
		P&R駐車場・駐輪場整備の取組件数（累計）			件	42/	40/	40/					
	車両のラッピング・車内放送等の取組件数（累計）			件	76/	73/	65/						
	単位当たりコスト	総事業費	/	取組件数		870千円	597千円	878千円					
事業成果	成果目標 (指標設定理由等)	県民一人当たりの公共交通の利用回数を2021年度までに45.5回、2026年度までに47.0回まで引き上げる ※昨年立ち上げた「地域交通戦略会議」では、R10（2028）年度までに県民一人当たりの公共交通の利用回数を「年間50回」に引き上げる目標を、今年度策定を目指す新たな地域公共交通計画に盛り込む方針について決定。											
	成果 (目標達成状況)	【成果指標名】（実績値/目標値）			単位	2022 年度	2021 年度	2020 年度					
		県民1人当たりの公共交通の利用回数			回	/	35.9/45.5	34.3/					

事業シート（概要説明書）

予算事業名	公共交通活性化総合対策事業	事業開始年度	2000年度
<p>事業の自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)</p>	<p>○本事業では、各市町村の公共交通のマスタープランとなる交通計画の策定、コミュニティバスのルート再編に向けた実証実験、駅周辺のパークアンドライド駐車場の整備等、利便性向上等に向けた市町村や交通事業者の主体的な取組みを推進してきた。</p> <p>○また、利用客にも人気の高い万葉線のドラえもんトラムの車両ラッピング、人気声優の声による車内放送の制作等、公共交通のイメージアップの取組みも本事業により推進してきた。</p> <p>○公共交通の利用回数が減少する都道府県もある中で、これらの取組みを進めてきた本県の公共交通は、県民一人当たりの利用回数がH30年度まで増加してきたところであり、本事業は一定の成果をあげてきた。</p> <p>○また、県内市町村からは、現在も公共交通の利便性向上等に関して要望されており、公共交通の利便性向上等を今後も進めていくことが求められている。</p> <p>○しかしながら、新型コロナや燃料価格の高騰の影響、人口減少・少子高齢化の本格化、働き方の変化の進展等により、交通事業者の収支悪化→コストカット（減便等）によるサービスレベルの低下→さらなる利用者減といった負のスパイラルに陥る事態が全国では懸念されている。</p> <p>○公共交通を取り巻く状況が一層厳しさを増している近年の状況を踏まえると、交通事業者等の主体的な取組みを前提とした現行の事業では目的を達成できなくなっている。</p> <p>○こうした中、昨年立ち上げた地域交通戦略会議では、「現行の交通事業者の努力プラス補助金という形では、抜本的な課題解決につながらない」「地元の県・市町村の更なる関与が求められる」等の意見があがっている。</p> <p>○今年2月に会議でとりまとめた「富山県の地域交通ネットワークの目指すべき姿」では、サービスレベルの向上に向けた自治体の積極的な関与の必要性等が盛り込まれており、本事業も見直しについて検討する必要がある。</p> <p>○また、現行の事業では支援対象を市町村と交通事業者等に限定している。最近では、交通事業者以外の民間事業者が目的地までの経路検索や企画乗車券の購入等ができるMaaSアプリをサービス提供するなどの取組事例もでてきている。公共交通は地域にとって欠かせない重要なインフラであることを踏まえれば、交通事業者や市町村だけでなく、その他の関係者の取組みも推進し、地域全体で目標達成に向けて取り組むことが重要である。</p>		
<p>比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)</p>	<p>【活性化総合対策事業の類似事業例】</p> <p>岩手県：地域公共交通活性化推進事業費補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通体系の再編に係る計画の策定に要する経費 ・地域公共交通体系の再変に伴い実証運行を行う場合に要する経費 <p>東京都：地域公共交通策定費</p> <p>市区町村の地域公共交通計画の策定を支援</p> <p>京都府：地域公共交通計画策定支援事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通の将来像等を位置付けた計画策定及び計画に基づく交通再編や効果検証への支援 <p>【パークアンドライド推進事業の類似事業例】</p> <p>山形県：やまがた鉄道沿線活性化助成金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パークアンドライド用の駐車場等を整備するための経費を支援 <p>佐賀県：在来線利用促進事業費補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パークアンドライド実証実験に係る経費 		
<p>特記事項</p>	<p>(参考) ウェルビーイング県民意識調査 (R4.9実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「交通面に不安はない」の設問に対し、「いいえ」と「どちらかと言えばいいえ」の回答割合が50.5%と、不安を感じている人が多く、将来にわたり持続可能な公共交通の確保が求められている。 <p>(参考) 地域交通戦略会議における主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行の交通事業者の努力プラス補助金という形では、抜本的な課題解決につながらない ・地元の県・市町村の更なる関与が求められる ・県民一人当たりの地域交通の利用回数の目標（年間50回）は、利便性向上のステージアップが前提 <p style="text-align: right;">等</p>		

公共交通活性化総合対策事業

補足資料

富山県地域交通戦略の策定

○富山県地域交通ビジョン(H28.3)

北陸新幹線等の開業による環境変化を踏まえ、本県の地域交通の基本的な方向性や重点施策等をまとめたもの

基本理念の「利用目的に応じた利便性の高い地域交通ネットワークを形成すること」に基づき、利便性向上の取組みを推進



計画策定後5年超が経過し、新型コロナウイルス感染症の流行、少子高齢化・人口減少の本格化、ライフスタイル・ワークスタイルの変化等、公共交通を取り巻く環境が変化



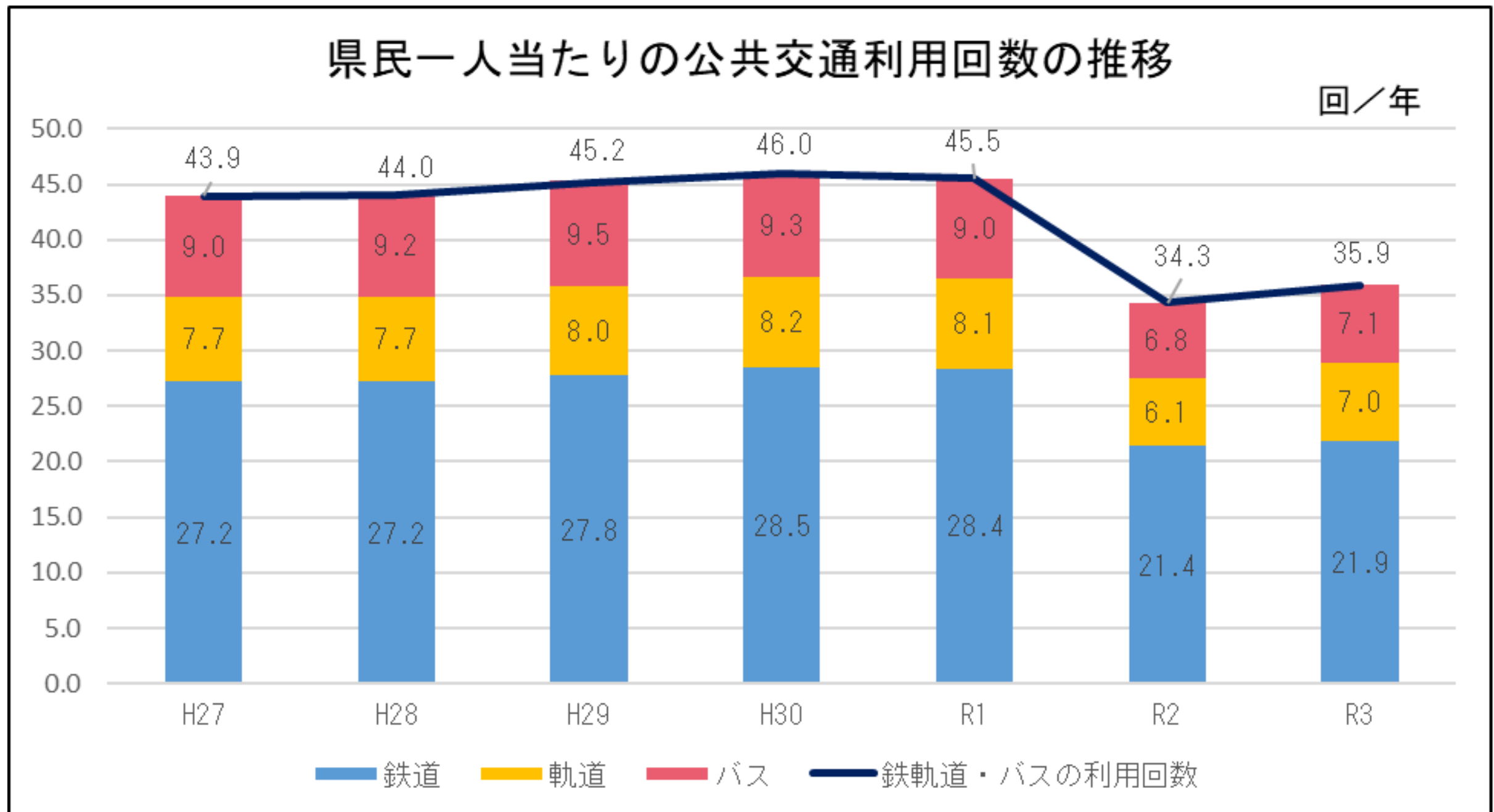
富山県地域交通戦略会議を設置(R4.6)し、現在「富山県地域交通戦略」を策定中(R5年度中に策定予定)。

【富山県地域交通戦略の基本的な方針・考え方】

- ・カーボンニュートラル等の社会からの要請に応え、ウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域交通サービスの実現を目指す。
- ・自治体や地域住民の積極的関与・参画、事業者間の協調など、関係者間の役割分担・責任分担について考え、地域全体で実現を目指す。

公共交通の利用者の推移

富山県地域交通ビジョンに基づき利便性向上の取組みを進めた結果、コロナ禍前の平成30年度まで、県民一人当たりの県内の鉄軌道・バスの年間利用回数は増加。しかしながら、コロナ禍により公共交通の利用は大きく落ち込んだ。



活性化総合対策事業①

○公共交通の活性化計画の策定に必要な調査、コミュニティバス等の実施に必要な計画策定・実証運行、バス停の整備等に要した経費の一部を支援するもの

【市町村の地域公共交通計画策定を支援した例】

・魚津市地域公共交通計画（R3年度支援、R4.3策定）

計画の目標値に「市内公共交通利用者数」を位置付け

現況(R1)2,613,511人→目標値(R8)2,640,000人

・砺波市地域公共交通計画(R3年度支援、R4.3策定)

計画の目標値に①「市営バス1便当たりの利用者数」、②「JR城端線砺波駅1日利用者数」を位置付け

①現状値(R2)3.8人/便→目標値(R8)5.0人

②現状値(R1)1,172人/日→目標値(R8)1,172人/日

活性化総合対策事業②

【実証実験等により、利用者が増加した一例】

○黒部市コミュニティバス実証実験（H24実施）

①生地三日市循環線実証実験検証調査

ルート・ダイヤを検証し、利便性を向上

H24:16,212人 → H29:23,895人

②池尻線割引運賃実証事業(均一運賃化)

H25:5,384人 → H29:7,707人

○富山地方鉄道市内軌道線

新富山駅上屋整備(H23)

設置前(H23):363人

→ 設置後(H30):562人



新富山駅（現トヨタモビリティ富山
Gスクエア五福前駅）

パークアンドライド推進事業

○P & R駐車場・駐輪場の整備、看板の作成等の普及啓発に要した経費の一部を支援するもの

H12～R4で駐車場666台分、駐輪場492台分を整備
(県内P & R総数 駐車場:6,696台分、駐輪場:19,724台分)

【駅利用者の増加した一例】

・砺波市 JR城端線砺波駅駐車場(H20:20台分拡張)

利用者数 H20:2,146人/日→H30:2,401人/日

・富山市 ライトレール蓮町駅駐車場(H21:23台、H27:15台)

利用者数(平日) H20:1,014人/日→H27:1,056人/日

・富山地方鉄道 南富山駅駐輪場

(H19:120台分整備)

H19:1,112人/日→H30:1,292人/日



乗りたくなる公共交通推進事業

○バスや路面電車の車両のラッピング、内装の改装、車内放送の更新、公共交通の利用促進事業に要した経費の一部を支援するもの

【利用者増加の一例】

万葉線車両ラッピング ドラえもん ترام

- H24.9.8運行開始(H24,25,28,R1にラッピング実施、R3には地元出身の人気声優の車内放送を整備)
- H25～H30の間、万葉線の平均乗車人員を約1.5万人～2.8万人上回る
- 国内のみならず海外からの団体利用が多い
H30団体利用人員：国内2,751人、海外6,112人



ドラえもん ترام